



人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

2015年度(2016年3月期)

第3四半期決算 補足説明資料

目次

1. 2015年度(2016年3月期) 第3四半期累計期間
連結業績
2. 2015年度(2016年3月期) 連結業績計画
→直近の公表から修正なし
3. 株主の皆様への利益還元
→直近の公表から修正なし

2016年2月4日



アズビル株式会社は
2016年に創業110周年を迎えます。

注記事項



1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。

2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。

- B A: ビルディングオートメーション
- A A: アドバンスオートメーション
- L A: ライフオートメーション

3) 各セグメント別の金額には、セグメント間の内部取引が含まれています。なお、当年度より新基幹情報システム導入を契機として本取引の測定方法を変更しています。比較のため、本資料における前年度の受注高、売上高につきましては変更後の方法で見直しています。

4) azbilグループの売上は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。

5) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

6) 連結範囲が次の通り変更となっています。

	2014年度				2015年度			変更の理由
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	
<新規連結会社>								
① アズビルサウジアラビア有限会社	※ ●	●	■		■			重要性増大
② アズビル北米R&D株式会社				■	■			重要性増大
<連結除外となった会社>								
① アズビルあんしんケアサポート株式会社	■							全株式売却
② アズビルバイオビジラント株式会社	■							清算・事業移管

●: B/S連結

※ 同時に新規連結時点における受注残高を受注高に計上しています。

7) 新基幹情報システム導入を契機として、当年度より以下の管理体制の強化・会計方針の変更を実施しています。

① 複数年契約の受注計上範囲の見直し (■ 従来の市場化テスト等大型のサービス案件だけでなく全ての複数年契約を計上)

[単位: 億円]

	2015年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減
従来の複数年契約 (市場化テスト等大型契約)	14	76	△62
受注範囲見直しによる追加計上額	85	—	+85
2015年度新規契約分	45	—	+45
既存契約分	39	—	+39
合計	100	76	+23

② 国内における物品販売の売上計上基準を出荷基準から納品日に収益を認識する方法に変更 (■ 影響は軽微)

③ セグメント間の内部売上高又は振替高の測定方法変更
(■ 影響は軽微、比較のため、本資料における前年度の受注高、売上高につきましては変更後の測定方法で見直しています)

④ ジョブ損益管理方法の統一 (■ 主にBA事業に影響※、損失引当金計上基準見直しに伴う一時的な費用増加等)

影響範囲の表記

■ BA事業 ■ AA事業

8) 当年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としています。

**1. 2015年度(2016年3月期)
第3四半期累計期間 連結業績**

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績

経営成績

〈対前年同期〉

■【受注高・売上高】

受注高は、良好な国内の事業環境に加えて受注計上範囲見直し^{注記事項7)}の影響を受けたBA事業の伸長により増加。売上高は、BA事業が増収したものの、前年度に実施した事業譲渡の影響^{※1)}によりLA事業が減収したことを主因に前年同期同水準。 ※1 第3四半期連結累計期間における受注、売上高への影響は約34億円。但し、セグメント利益への影響は軽微です。

■【利益】

営業利益は、BA事業の売上構成変化、事業拡大・基盤強化のための費用^{※2)}増加、基幹情報システムの導入を契機とした管理体制強化の影響等^{※3)}があるものの、のれん償却費の減少及び事業構造変革の成果からLA事業の利益が改善し、増益。経常利益は、前年同期の為替差益が為替差損に転じたことを主因に減少。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別損失が前年同期に対し減少したものの、法人税等調整額が増加したため減少。

※2 研究開発費、基幹情報システム稼働に伴う償却負担

※3 ジョブ損益管理方法の統一に伴う損失引当金計上基準見直し等の影響により一時的な費用が増加しています。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	2,146	2,082	+64	+3.1
売上高	1,764	1,765	△0	△0.0
国内	1,415	1,441	△26	△1.8
海外	349	324	+25	+7.8
売上総利益	614	612	+1	+0.3
%	34.8	34.7	+0.1P	
販売費及び一般管理費 (内のれん償却額)	544 (5)	547 (14)	△2 (△8)	△0.5
営業利益	69	65	+4	+6.3
%	4.0	3.7	+0.2P	
経常利益	70	86	△15	△18.3
税金等調整前当期純利益	66	60	+6	+10.1
親会社株主に帰属する四半期純利益	34	40	△5	△14.5
%	2.0	2.3	△0.3P	

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - BA事業



〈対前年同期〉

■【受注高・売上高】

受注高は、活発な首都圏都市再開発と堅調な省エネ関連需要に加えて、複数年受注の計上範囲見直しによる影響から国内が大きく増加し、海外も着実に増加。売上高は、国内新設建物分野と海外の増加により全体として増収となったが、収益への影響が大きい既設建物分野が微減、サービス分野はほぼ前年同期と同水準となった。

■【セグメント利益】

セグメント利益は売上構成の変化に加え、事業展開強化のための施策・体制整備や研究開発費の増加、新基幹情報システムの稼働に伴う費用増加及び導入を機に行ったジョブ損益管理方法統一の影響等から全体として減少。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	1,080	1,004	+75	+7.6
売上高	776	749	+27	+3.6
セグメント利益	44	53	△8	△16.7
%	5.7	7.1	△1.4P	
(ご参考) のれん償却額	-	1	△1	

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - AA事業



〈対前年同期〉

■【受注高・売上高】

受注高は、国内が伸長したものの、海外が前年同期における新規連結の影響^{注記事項 6)}及び中国、アジアの落込みにより減少し、全体として微減。売上高は、海外は増収となったが、国内では、足元においてシステム分野に改善がみられるものの、前年同期に大型案件があった反動もあって減収となり、全体としても若干の減少。

■【セグメント利益】

セグメント利益は、前年度に実施したグループ内におけるリソースの最適配置による効果はみられたが、研究開発費の増加、新基幹情報システムの稼働に伴う費用増加等により、全体として減少。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	721	725	△4	△0.6
売上高	660	664	△4	△0.7
セグメント利益	24	29	△4	△16.3
%	3.7	4.4	△0.7P	
(ご参考)のれん償却額	1	2	△0	

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - LA事業

〈対前年同期〉

■【受注高・売上高】

受注高は、大型案件の獲得等によりLSE分野が改善したが前年度に健康福祉・介護分野の事業を譲渡^{※1}した影響をカバーするに至らず全体としては若干の減少。売上高は、LSE分野で増収となり、他の事業も前年同期並みの水準で推移したが、上記の事業譲渡の影響により全体として減収。

■【セグメント利益】

セグメント利益は、のれん償却費の減少に加えて、構成各事業の構造変革・体質強化が進んだことにより増益。

※1 健康福祉・介護の分野においてサービスを提供してきたアズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を、2015年2月4日に総合警備保障株式会社へ譲渡いたしました。第3四半期連結累計期間における受注、売上高への影響は約34億円。但し、セグメント利益への影響は軽微です。

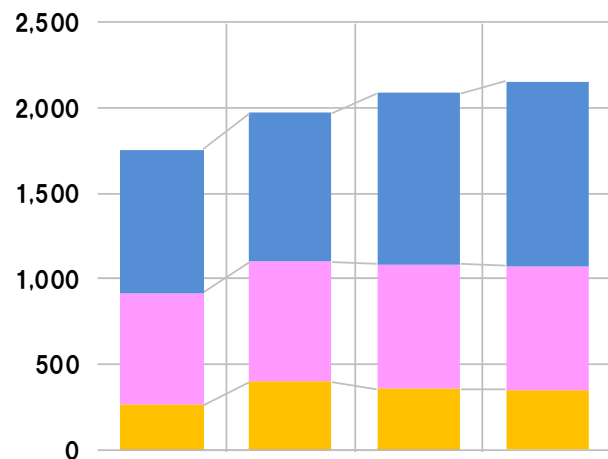
[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	351	359	△7	△2.0
売上高	335	356	△21	△5.9
セグメント利益	0	△17	+17	-
%	0.2	△4.8	+5.0P	
(ご参考) のれん償却額	3	10	△6	

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別受注高グラフ



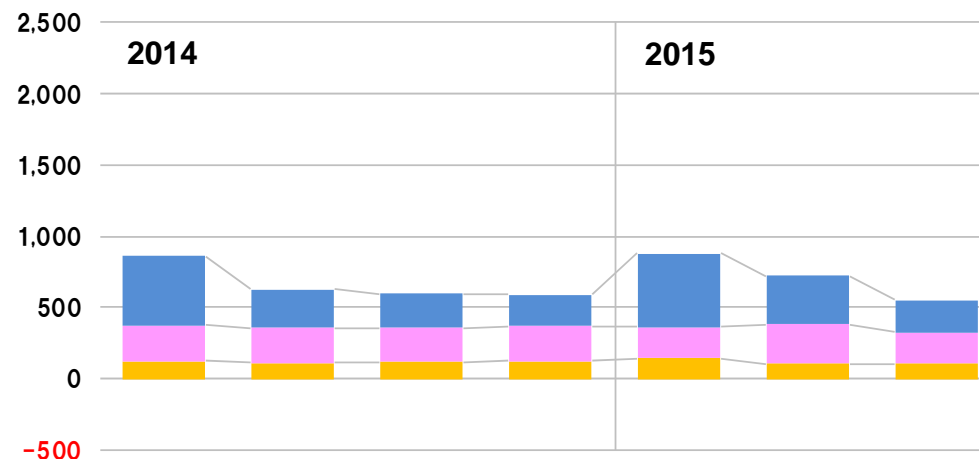
■ 同期比較



年度	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計
■ BA事業	839	868	1,004	1,080
■ AA事業	653	703	725	721
■ LA事業	261	399	359	351
連結	1,744	1,958	2,082	2,146

■ 四半期推移

[単位: 億円]

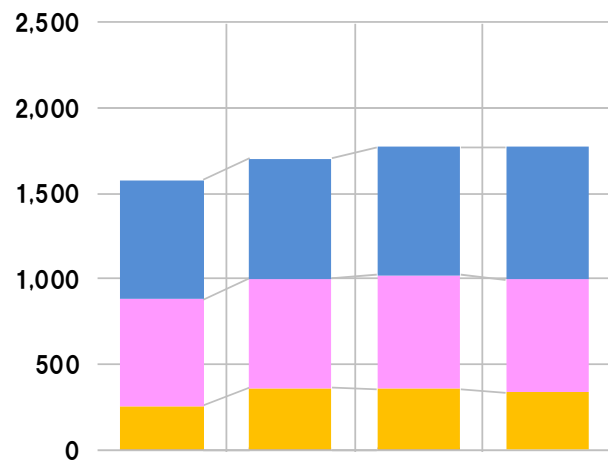


年度	2014				2015		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	486	274	242	219	514	341	224
■ AA事業	250	240	233	245	224	277	219
■ LA事業	124	113	120	125	140	103	108
連結	860	626	594	587	878	718	548

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別売上高グラフ



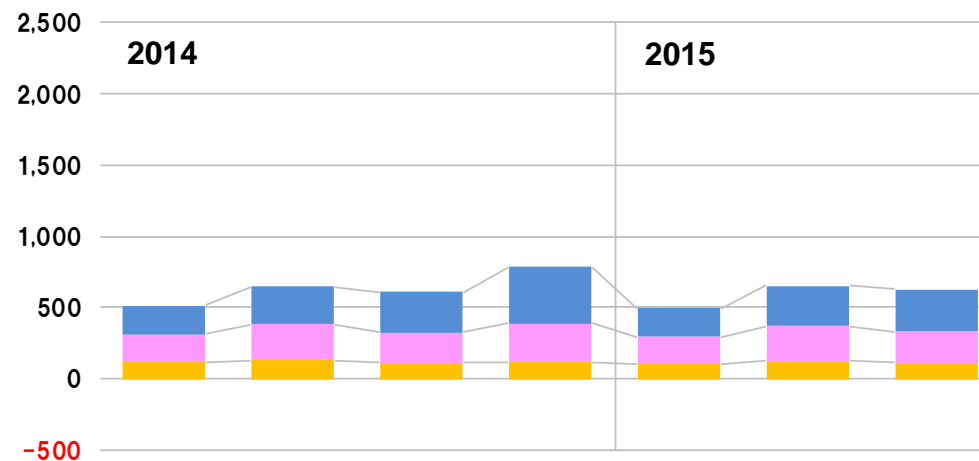
■ 同期比較



年度	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計
■ BA事業	698	705	749	776
■ AA事業	623	637	664	660
■ LA事業	258	361	356	335
連結	1,570	1,696	1,765	1,764

■ 四半期推移

[単位: 億円]

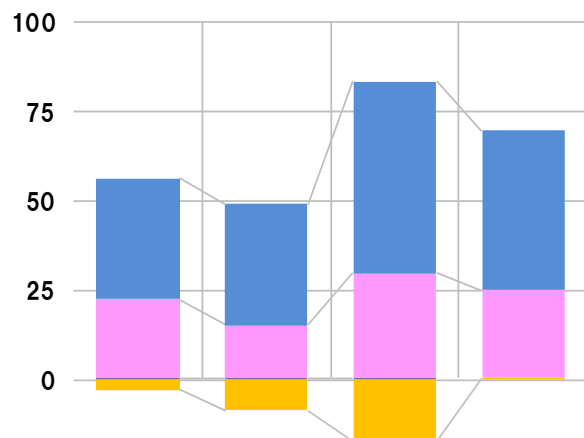


年度	2014				2015		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	197	269	282	393	198	283	294
■ AA事業	197	248	218	272	193	242	224
■ LA事業	117	130	109	116	102	124	108
連結	510	646	608	779	492	648	624

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント利益(営業利益)グラフ

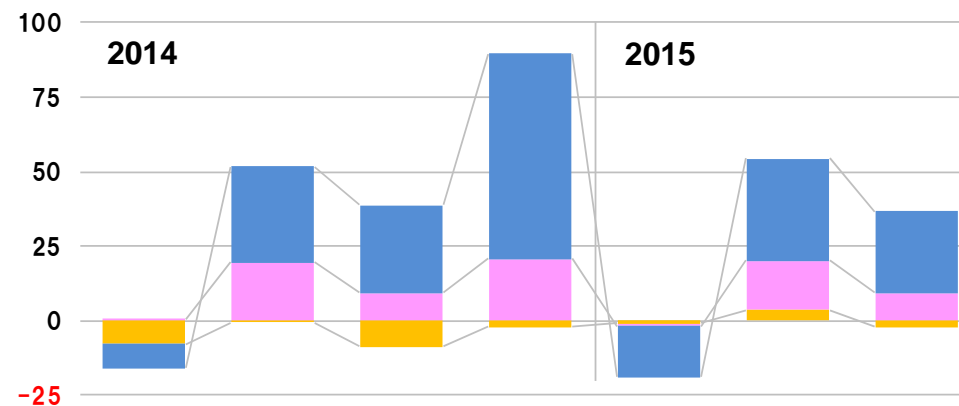


■ 同期比較



■ 四半期推移

[単位: 億円]



年度	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計
BA事業	33	33	53	44
AA事業	21	14	29	24
LA事業	△2	△8	△17	0
連結	53	40	65	69

年度	2014 1Q	2014 2Q	2014 3Q	2014 4Q	2015 1Q	2015 2Q	2015 3Q
BA事業	△8	32	29	68	△17	34	27
AA事業	0	19	9	20	△1	16	9
LA事業	△7	△0	△8	△2	0	3	△2
連結	△15	51	29	87	△19	54	34

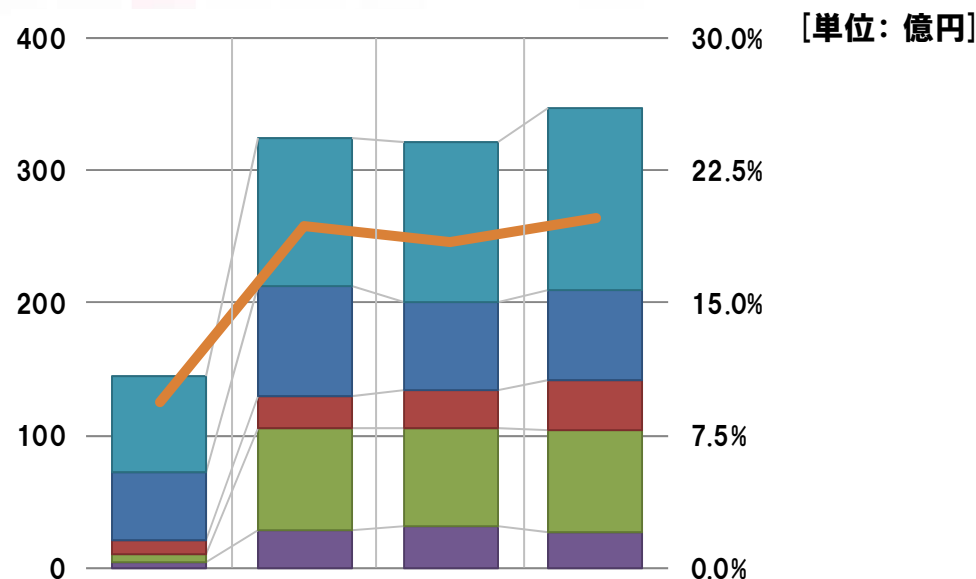
1. 2015年度(2016年3月期) 第3四半期累計期間 連結業績 海外エリア別売上高



<対前年同期>

海外売上高は、為替影響もあり
3事業で伸長。

- アジア地域は、AA事業及びLA事業(LSE分野)を中心に全事業で伸長。
- 中国は、AA事業での減速をBA・LA両事業の改善により補い増収。
- 北米は、AA事業の装置メーカー向けソリューションを中心に着実に伸長。
- 欧州は、LA事業(LSE分野)の改善により増収。



年度	2012 3Q累計	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計
■ アジア	73	111	121	137
■ 中国	51	83	67	69
■ 北米	11	24	28	37
■ 欧州	5	78	75	77
■ その他	5	28	31	27
連結	147	326	324	349

(ご参考)

■ 海外売上高%	9.4%	19.3%	18.4%	19.8%
期中平均レート(USD)	79.4	96.84	102.94	120.99
期中平均レート(EUR)	101.73	127.48	139.5	134.75

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでいません。

※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しています。

1. 2015年度(2016年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 財政状態



- 資産 現金及び預金の減少と売上債権の減少を主因に前年度末比196億円の減少。
- 負債 主に賞与引当金、仕入債務、未払法人税等、短期借入金が減少し、前年度末比138億円の減少。
- 純資産 利益^{※1}の計上による増加があった一方で、配当金の支払に加えて、当期は、自己株式の取得、過去の追加取得により生じたのれんの未償却残高を期首の純資産において修正^{※2}したこと等により、全体として前年度末比57億円の減少。

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

※2 企業結合に関する会計基準等の適用による会計処理

[単位: 億円]

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
流動資産	1,807	1,979	△ 172	負債	915	1,054	△ 138
現金及び預金	453	588	△ 134	流動負債	774	896	△ 122
受取手形及び売掛金	813	889	△ 76	仕入債務	385	426	△ 41
棚卸資産	256	216	+39	短期借入金・社債	135	158	△ 22
その他	283	285	△ 1	その他	254	311	△ 57
固定資産	653	677	△ 23	固定負債	140	157	△ 16
有形固定資産	246	256	△ 10	長期借入金・社債	7	8	△ 1
無形固定資産	90	115	△ 24	その他	133	148	△ 14
投資その他の資産	316	304	+11	純資産	1,545	1,602	△ 57
				株主資本	1,418	1,466	△ 47
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	123	171	△ 48
				利益剰余金	1,236	1,215	+20
				自己株式	△ 46	△ 26	△ 20
				その他の包括利益累計額	107	116	△ 8
				非支配株主持分	19	20	△ 1
資産合計	2,460	2,657	△ 196	負債純資産合計	2,460	2,657	△ 196

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 62.0%、前年度末 59.6%

2. 2015年度(2016年3月期) 連結業績計画 →直近の公表から修正なし

2. 2015年度(2016年3月期) 連結業績計画 業績計画



- 当第3四半期累計期間における連結業績は、事業・地域によって差異があるが、全体としては計画の範囲内で推移しており、2015年10月30日発表の通期の業績計画を据え置く。

[単位：億円]

	当年度		前年度	対前年度	
	3Q累計	通期計画 (2015/10/30)		増減	増減%
売上高 (のれん償却額)	1,764 (5)	2,560 (7)	2,544 (18)	+15 (△11)	+0.6
営業利益 %	69 4.0	170 6.6	153 6.0	+16 +0.6P	+10.8
経常利益	70	166	171	△5	△3.2
親会社株主に帰属する当期純利益 %	34 2.0	95 3.7	71 2.8	+23 +0.9P	+32.5

2. 2015年度(2016年3月期) 連結業績計画 セグメント別計画

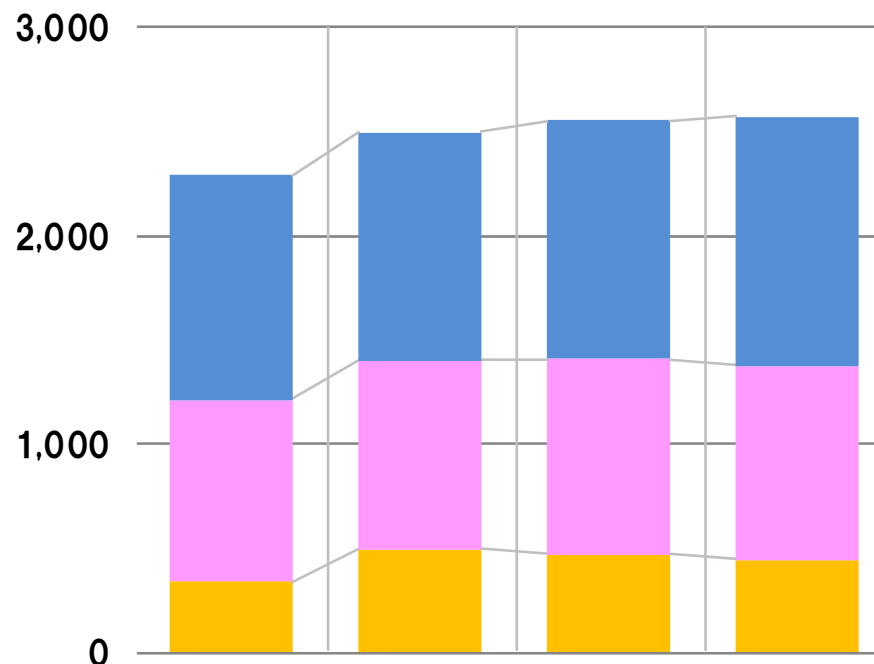


[単位：億円]

	当年度		前年度	対前年度	
	3Q累計	通期計画 (2015/10/30)		増減	増減%
■ B A事業					
売上高	776	1,190	1,143	+46	+4.1
(のれん償却額)	(-)	(-)	(1)	(Δ1)	
セグメント利益	44	118	122	Δ4	Δ3.6
%	5.7	9.9	10.7	Δ0.8P	
■ A A事業					
売上高	660	930	936	Δ6	Δ0.7
(のれん償却額)	(1)	(2)	(3)	(Δ1)	
セグメント利益	24	45	50	Δ5	Δ10.2
%	3.7	4.8	5.4	Δ0.5P	
■ L A事業					
売上高	335	450	473	Δ23	Δ4.9
(のれん償却額)	(3)	(5)	(13)	(Δ8)	
セグメント利益	0	7	Δ 19	+26	-
%	0.2	1.6	Δ 4.1	+5.6P	
連結					
売上高	1,764	2,560	2,544	+15	+0.6
(のれん償却額)	(5)	(7)	(18)	(Δ11)	
営業利益	69	170	153	+16	+10.8
%	4.0	6.6	6.0	+0.6P	

2. 2015年度(2016年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移

[単位: 億円]



年度	2012	2013	2014	2015 (修正計画)
■ BA事業	1,074	1,095	1,143	1,190
■ AA事業	876	908	936	930
■ LA事業	339	※1 495	※2 473	450
連結	2,275	2,484	2,544	2,560

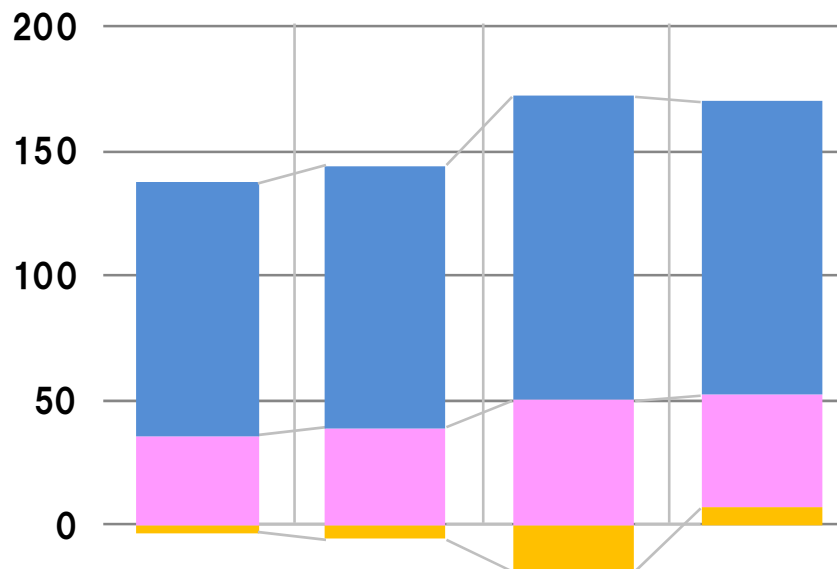
※1 アズビルテルスターを2012年度末に新規連結し、2013年度より損益を計上しています。

※2 アズビルあんしんケアサポートの全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外しました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しています。

2. 2015年度(2016年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



年度	2012	2013	2014	2015 (修正計画)
■ BA事業	101	105	122	118
■ AA事業	36	39	50	45
■ LA事業	△ 3	※1 △ 6	※2 △ 19	7
連結	134	139	153	170

※1 アズビルテルスターを2012年度末に新規連結し、2013年度より損益を計上しています。

※2 アズビルあんしんケアサポートの全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外しました。
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しています。

3. 株主の皆様への利益還元

→直近の公表から修正なし

3. 株主の皆様への利益還元 配当金、自己株式取得

2015年度 配当計画 → 期初計画から変更なし

配当金（年間）：1株当たり67円

（2014年度年間配当（63円）に普通配当を4円増配）

[基本方針]

株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率、純資産配当率の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して、配当水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する。

[参考] 2015年度(中間配当/期末配当)計画

	2014年度		2015年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	31.5	31.5	33.5	33.5(計画)
配当性向	64.9%		51.7%	
純資産配当率 (DOE)	3.1%		3.1%	

自己株式取得 → 期初計画の通り実施完了

取得額 約19億9千8百万円

取得株式数 60万株（普通株式）

取得期間 2015年5月14日～6月8日

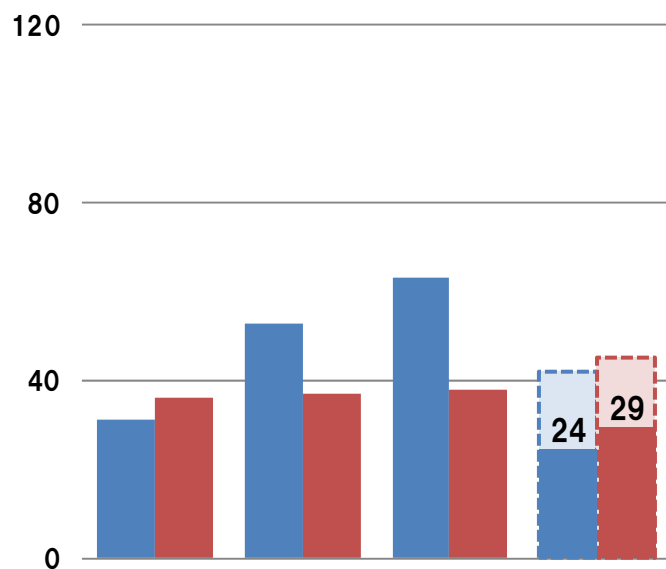
資本効率の向上を図るとともに、今後の業績の見通しを反映して、株主の皆様への一層の利益還元と企業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、自己株式の取得を実施。

補足資料

設備投資・減価償却費／研究開発費

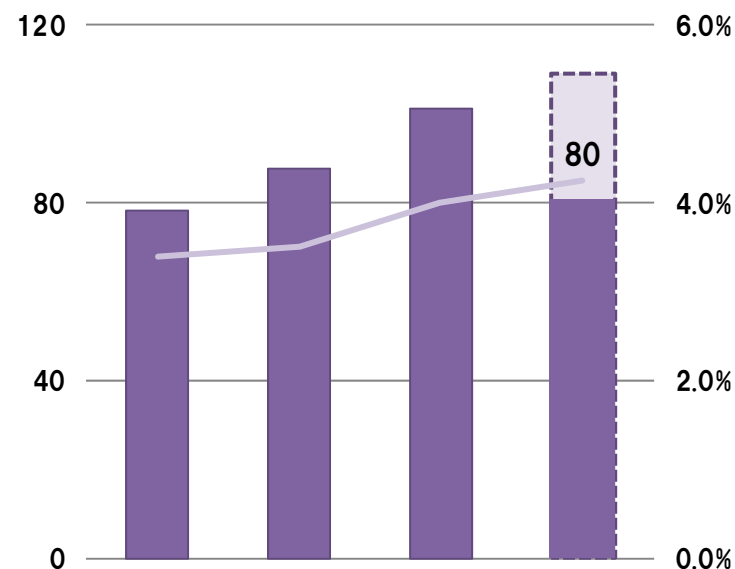
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費



年度	2012	2013	2014	2015
				(計画/実績)
■ 設備投資	31	53	63	42
■ 減価償却費	36	37	37	45

■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2012	2013	2014	2015
				(計画/実績)
■ 研究開発費	78	87	101	109
— 研究開発費率	3.4%	3.5%	4.0%	4.3%

※ 2015年5月に稼働した基幹情報システムの更新に係る投資が2012年度から発生しています。これに加え、2014年度においては海外における生産設備への投資が発生しました。

azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、
地球環境に貢献します。

アズビル株式会社は2016年に創業110周年を迎えます。



YAMATAKEで100年、azbilで10年。合わせて110年。
いつの時代も「人を中心としたオートメーション」で人々のシアワセを
第一に考えてきたazbilグループは、これからも計測と制御の技術のもと、
より一層の価値創造を進め、皆さまとともに歩んでまいります。

<お問い合わせ>

アズビル株式会社
グループ経営管理本部
IR室

電話: 03-6810-1031
メール: azbil-ir@azbil.com
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>